

## I 運動器領域の技術と臨床の最新動向

## 12. 第37回日本整形外科超音波学会

会長  
岩崎

博 和歌山県立医科大学医学部整形外科学講座

このたび、2026年8月8日(土)、9日(日)の両日にわたり、和歌山市にある和歌山城ホール(和歌山城の目の前)を会場として、「第37回日本整形外科超音波学会」を開催させていただき運びとなりました。超音波を用いた診療を始め(エコーにはまり始めて)まだ日が浅い私にとりまして、本学会を担当し、そして和歌山で開催させていただくことは、誠に光栄の至りであり、このような機会をお与えくださいました学会員および役員の方々に、心より感謝申し上げます。

今回の学会テーマには、華岡青洲の医療理念であり、人生哲学でもあった「ないがごういつ内外合一 かつぶつきゆうり活物窮理」を掲げさせていただきました。

華岡青洲は、江戸時代に全身麻酔手術を成功させた「医聖」の名で尊敬され

る、紀州・和歌山が世界に誇る偉人です。内外合一とは、「外科を志すものは内科も学ぶべきである。内科を極めようとする者は、外科の知識がなくては、完全な治療ができ得ないことをわきまえること。自分の領域ばかりにこだわってはいならない」という教えです。また、活物窮理とは、「生きたものの中に真理があるから、深く観察して患者自身や病の特質を見極めなければならない」という理念を表しています。これらの言葉は、まさに現代医学にも相通ずるところですが、われわれが今、医療の現場で見失いつつある姿勢ではないでしょうか。超音波を用いた運動器診療が、今まさにこのことを再認識させてくれていると考えています。

患者さん一人ひとりを深くいねいに観察し、超音波を用いて評価し、病態

を深く考察する。この診療姿勢は専門領域の壁を越え、そして壊し、多職種の連携を促進し、運動器疾患診療における内科と外科を理解することにつながると信じています。超音波装置を用いた運動器診療を行い、考え、つながり、私たち自身が「令和の華岡青洲」となれるよう、皆様とともに歩んでいきたいと考えています。

具体的なプログラムを少し紹介させていただきます。

私をエコーの世界に引きずり込んで(笑)くださった皆川洋至先生(城東整形外科)に、会長招請講演を行っていただきます。このことは、開催が決定した時にまずお願いいたしました! どんなお話がうかがえるか、今から楽しみで仕方がありません。

教育研修講演は、リーダーシップとマネジメントに関して熊澤祐輔先生(くまざわ整形外科-TAO東京-)に、キャリアそしてマネーに関して面谷透先生(くまざわ整形外科-TAO東京-)とわれらが石元優々に、運動器以外のエコーの「みかた」として白石吉彦先生(隠岐広域連合立隠岐島前病院)と多田明良先生(和歌山県立医科大学地域医療支援センター)に、そして、「脊椎手術後疼痛の『みかた』~第38回横浜に向けて~」と題して宮武和馬先生と片山裕貴先生(共に横浜市立大学整形外科)にご講演を賜ります。参加される皆様の身体がいくつあっても足りない学会にしたいと考えています。

教育セッションは「運動器診療の次



筆者近影

第37回日本整形外科超音波学会  
ロゴ